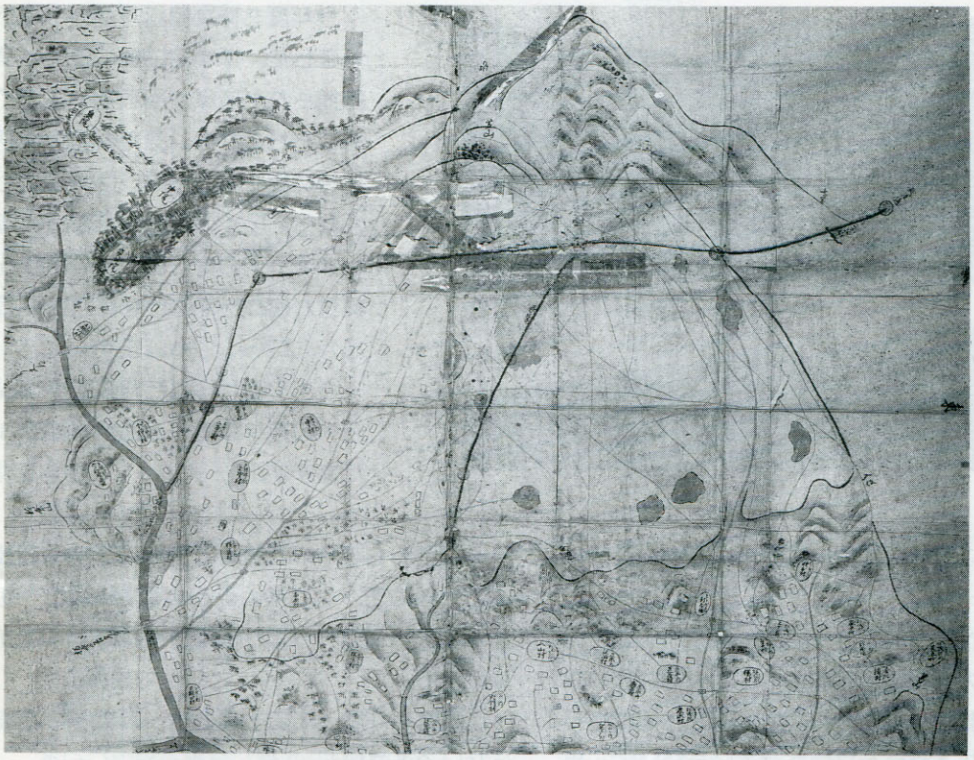
長野市立

博物館だより

第16号



寛文11年飯縄原争論裁許絵図

（一二二×一四四㎝）

入会地（いりあいち）・村境をめぐっての、村と村との争いは、江戸時代を通じて多く起っています。こうした争論は、しばしば、原告が幕府に提訴するという形をとりました。

飯縄原の入会権をめぐっては、戸隠領上野村と松代領葛山郷（現・芋井）とで、寛文10(1670)年以来、実に約３世紀もの間、争われることとなるのです。

事のおこりは、戸隠領上野村の百姓が、上野村分の入会地で仕事をしていたところ、松代領葛山郷の百姓が、それを不当として、上野村百姓の仕事を妨害するという事件にはじまります。この事件の背景には、本来、入会林野を共用してきた葛山七郷のうちから、上野村のみを切り離して戸隠領に編入したことにあると考えられます。

結局、この争論は、上野村が寺社奉行に提訴をする形をとり、江戸の評定所において、翌11年７月に判決が告知されます。このような、江戸時代における民事裁判の判決告知を裁許といいました。

裁許絵図(写真)は、そのときの裁許に基づき、絵図面に墨で境界線を引き、それに押印したものです。この線が、裁許によって決まった境界を示します。そして、絵図の裏には、判決文が書き加えられ、三奉行(寺社・町・勘定の各奉行)と、老中の片苗字・官途名が連署され、その下には印が押されています。

この裁許絵図裏書によれば、寛文11年の裁許は一方的に戸隠側の勝訴となっています。

両者の争いはこの後も続き、天保13(1842)年の裁許では、戸隠側の敗訴となるのです。

（芋井　広瀬仁科会寄託）

ハクブツカンってどんなとこ？

今年度も博物館に多くの方々が訪れました。博物館に働く者にとって、来館された皆様が展示物を見てどう感じられたかは、第１の関心事です。

博物館に来られた、生徒・学生さんから、多くの感想文が寄せられています。その中には、私たち職員の気付かなかったことを書いてくださる方もいらっしゃいます。

今まで寄せられた感想の中から、３人の方々のものを掲載させていただきます。

５月25日に私達２年生一同が、大変お世話になりました。

私達は、とてもうるさかったので、他の館内のお客様に、大変御迷惑をおかけしたのではないか、と反省しております。それでも私達も、それなりに、勉強になる資料を見学させていただいて、良かったと思います。

私達はそのころ社会科で、弥生時代などを学習していたので、館内に展示してあるもの１つ１つが、その当時を思わせるものばかりで、とても学習を進めていくのに役立ちました。

おもちゃの方は、昔にあったブリキのおもちゃや、ぜんまいじかけのおもちゃなど他にも沢山、昔ながらのおもちゃがあったことを覚えています。

私が思ったことなんですが、こんなことを書いては、失礼だとは思いますが、読んで下さい。思うに、もっと館内の雰囲気をよくしてはどうでしょうか。なんとなく暗いような気がします。

それとおもちゃの方なんですが、ブリキで出来ているものを、ただ見せるだけではなくて、遊べるコーナーをつくってみた方が良いのではないでしょうか。

これは私が思ったことなので、あまり気になさらないで下さい。

（市内中学校２年生）

▲子供たちの遊びコーナー

博物館を見学後の感想

この前、長野市内の博物館を見学させていただいて、とてもいい勉強になりました。日本のすばらしい伝統的な古い文化を吸収させるチャンスを得られて、大切にしたいと思いました。

博物館で展示された物は我が国と比べて見るとユニークな所が分りました。例えば、昔人々の生活像や生活用具なども展示されるのはめずらしいと思いました。もう一つとしては私は日本のいくつかの博物館やお城を見学したことがありますがほとんど同じ感想でした。展示された物はあまり変りがない印象が残りました。しかし、博物館が小さいけれども、数が多いし、きれいだし、落着いています…という日本の文化の発展感を与えてくれました。

われわれは先進国の日本へ留学に来て、現代文化をマスターするだけではなく、旧い文化をも接する必要はあると思います。自己の視野を広めるために、自分を豊かにさせるために、日本の各面のい所を吸収しなければなりません。（信大留学生・中国）

7月29日私たち留学生一行は長野市立博物館を見学しました。見学を通じて長野の町の歴史を勉強するには役にたちます。

長野盆地の生いたちや農村のくらしなどをより多く理解しました。2000メートル級の高い山なみに囲まれている長野盆地を中心にした地方は険しい地形や厳しい冬の寒さに象徴されるような自然の中にあります。その中で人々は生きるための努力を重ね、この地方に合った生き方や生産に工夫をこらしてきました。

でも中国の農業展覧会はこれとぜんぜん違います。違ったところは目的です。中国の目的は階級対比で、つまり政治的な目的のために行なっているからやり方ももちろん違うわけです。日本の場合は歴史の再生で、昔の人々が自然と闘い、生きるための努力をはっきり映します。私はもちろん歴史を忠実に映した方がすきです。

（信大留学生・中国）

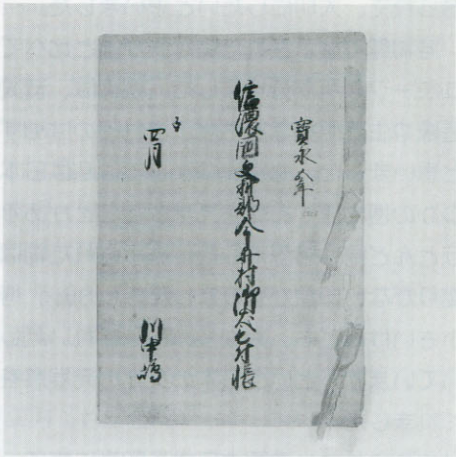
"御犬様"の時代 ～川中島町今井 小林家文書から～

犬は、古くから人に飼われ、人に仕え、家の番をしたり、猟に協力したりしてきました。近年では、より親密な関係となり、家族同然に生活する犬たちも多くいることは、御存知のとおりです。

今から約300年前、徳川政権も安泰となった元禄の世に、5代将軍綱吉によって生類憐みの令といわれる、一連の幕府法が出されました。この法律は、あらゆる生類を対象とするようになりますが特に犬・牛・馬・鳥類に対する保護には著しいものがありました。犬の保護を例にとってみると、犬の喧嘩は水をかけて引き分けさせ、怪我をさせないようにと令しています。

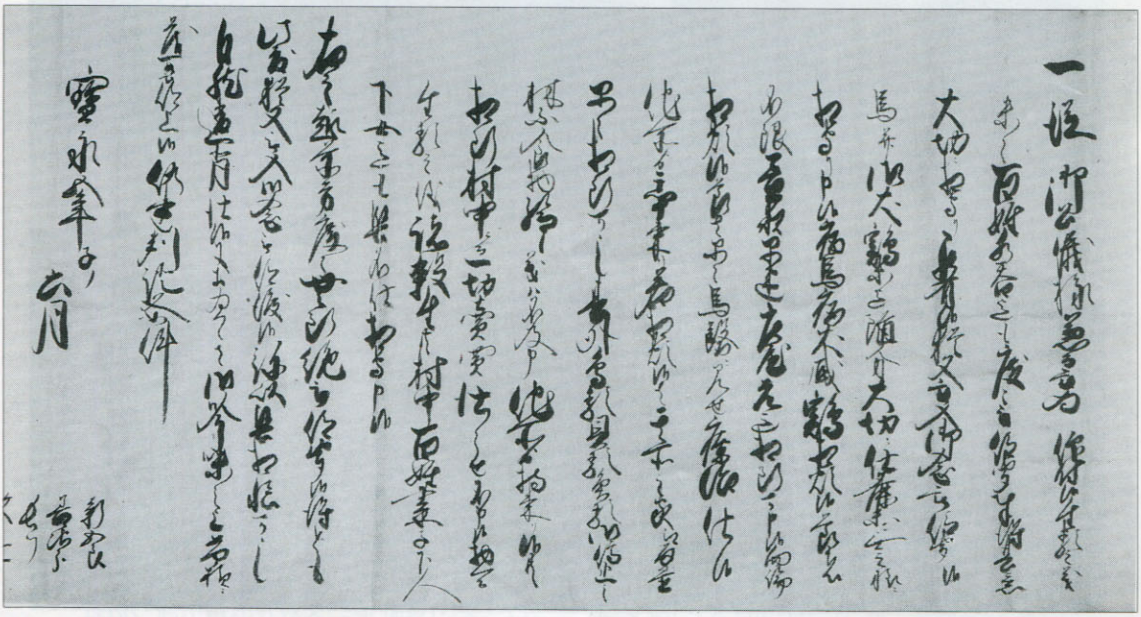
川中島今井村には、この頃の犬の毛付帳（写真右）と、生類に関する連判証文（写真下）が伝わってきました。両者共に宝永5(1708)年のもので、この年に今井村では生類憐みに関して徹底がはかられたものと考えられます。

「御犬毛付帳」には、五疋の犬の毛色、年齢、



飼い主が書かれていますが、記載方法をみると、雄犬を「男御犬」、飼い主を「御預り主」としており、犬に対する当時のあり方がうかがえます。

連判証文は25名の署名があり、病馬病犬に関しては、昼夜を限らず医者にみせることや、鳥類、貝類、魚類の禁食物は口にしないなど、幕府法の遵守を誓っています。



▲生類憐みについての連判証文

マンモスの臼歯（オランダ北海産出）

この度、分館茶臼山自然史館に一市民の御好意によりマンモスの臼歯が寄贈されました。この臼歯はオランダの北海から産出したもので、歯の長さが約18㎝、歯冠の厚さ(幅)が約6㎝あります。(写真)

▲上面(スケールは10㎝)

▲側面(スケールは10㎝)

マンモスというとふつうは氷河時代にシベリアやアラスカなどの寒冷な地域に生息していた“毛深いマンモス”（プリミゲニウス象)のことをさしますが、マンモス(Mammuthus)の仲間にはプリミゲニウス象のほかにその祖先であるメリジオナリス象やトロゴンテリ象（アルメニア象）が含まれます。

メリジオナリス象は“暖帯マンモス”とも呼ばれ、もともとアフリカ大陸の温暖な地域に生息していましたが、鮮新世後期(約200～300万年前)に当時陸化していたジブラルタル海峡を通ってアフリカ大陸からヨーロッパ南部に進出し、更新世前期(約70～200万年前）にはユーラシア大陸に分布を広げ、さらにベーリング陸橋を渡り北アメリカまで到達した象です。

また、更新世前期～中期（約13～70万年前）には、このように広い地域にわたるメリジオナリス象の中からより寒冷気候に適応したトロゴンテリ象があらわれます。トロゴンテリ象は、県下では南佐久郡八千穂村から臼歯が産出しており、“温帯マンモス”とも呼ばれている象です。

そして、さらに更新世後期（約１～13万年前）には、上に述べた“毛深いマンモス”つまりプリミゲニウス象があらわれ、氷河時代の末期には日本にもやってきたとされています。

このように、マンモスといっても時代・地域によってさまざま種類が生息していたわけです。今回寄贈いただいた臼歯は、残念ながら今のところ種類など詳しいことはよくわからないので、今後専門の方に種の同定をお願いする予定です。現在第四紀のコーナーにナウマン象の臼歯とともに展示してあります。

寄贈・寄託者の紹介

平成元年度(1989年４月１日～1990年３月31日)、次の皆様から、資料の寄贈・寄託をいただきました。

（敬称略）

寄贈資料

―― 自然 ――

井出秀夫（小諸市）
　アケボノゾウ切歯化石（東部町）　１点
中塚敬之介（京都市）
　貝類、魚類、植物類化石
田中邦雄（松本市）
　現世貝類　約1300点
　貝類化石(小谷村・鬼無里村)　300点
　岩石・鉱物
　以上、茶臼山自然史館受け入れ
山岸勝（桐原）
　排気鐘他、理科教育器具　10点
京都大学阿武山地震観測所（高槻市）
　岡野式電磁地震計　一式
長野県更級農業高等学校（篠ノ井布施高田）
　顕微鏡、スライド他教育器具　21点

―― 歴史 ――

前島一太郎（川端）
　典籍（能書、寺子屋手本他）　177点
　古文書（一紙文書）　53点
両角英夫（篠ノ井岡田）
　共和村議会　議事関係綴　２冊
　手紙類（両角主水宛）　約30点
　教科書（小学読本他）　38点
中村孝二（西鶴賀）
　一騎打ちの図（鴻業画）　１点
鳥羽貞子（篠ノ井布施高田）
　典籍（御絞集他）　18点
古参堂（篠ノ井栄町）
　長持(「信州善光寺寛文三年」銘あり)　１点
山田敏夫（西後町）
　錦絵　67点
　古文書(日記帳)・典籍類　49点
　看板（戦時統制下のもの）　１点
大蔵英美（篠ノ井布施高田）
　従軍関係（水筒・盃他）　４点
藤森治幸（安茂里杏花台）
　関所手形（宝暦十年）　１点
石坂文男（七二会戊）
　古文書（年貢皆済目録他）　約150点
古川良孝（篠ノ井塩崎）
　典籍（新版　宮雛形他）　14点
　免許状他　19点
片桐久由（松代町大室）
　古文書（養蚕日記他）　約150点

大蔵英美さんは、「昭和20年に東京赤羽工兵隊に入隊後、同年３月21日、北支山東省都済南衣3040部隊林隊で現地教育を受け、済南の北方平原県の警備に配属され、そこで終戦を迎えました。」

大蔵さんが「教育を受けた衣師団は、内地防衛という名目で移動の折、北朝鮮にてソ連と交戦、シベリアに抑留されました。また、林隊長は復員後、自宅の庭に大きな慰霊塔をたてて、なき部下の冥福を祈っているそうです。水筒は、赤羽で入隊時に支給され、持ち帰った唯一のものです。」

（大蔵英美さんの寄稿文による）

寄託資料

自然

湯本松範（若穂）
　枕状溶岩写真　5点

黒崎祐幸（松代町）
　村雨石（むらさめいし）　3点

以上、茶臼山自然史館受け入れ

歴史

古川良孝（篠ノ井塩崎）
　善光寺御堂再建控（写）　1点
　東京日日新聞号外（2.26事件関係）　1点

芋井広瀬仁科会
　飯縄山争論裁許状一式（飯縄山御裁許状他）　7点

考古資料

布施神社
　飯縄社古墳　直刀他　54点

購入資料

次の資料を購入しました。

川中島合戦陣取図、川中島合戦絵　計3点

民俗

前島一太郎（川端）
　ショイコ他　10点

鳥羽貞子（篠ノ井布施高田）
　千歯こき他　25点

山田敏夫（西後町）
　へそ巻き機他　6点

轟太市（大豆島）
　噴霧機　1点

宮原一郎（吉田）
　タンス・仏壇　4点

中山富太郎（箱清水）
　風琴　1点

荒井政雄（川中島町上氷鉋）
　ジキリョウ　2点

小池保房（七二会戊）
　馬鍬　1点

小出卓司
　銭箱　1点

山本隆司（三輪）
　行燈、銭箱　2点

古川良孝（篠ノ井塩崎）
　大工道具　3箱

左治木清二
　あいづや関係資料（醤油・味噌製造）　約100点

◀村雨石（むらさめいし）　（黒崎祐幸氏寄託）

産地　松代町豊栄付近

黒色の頁岩（けつがん）（板状にはげやすい泥岩）が石英閃緑岩（せんりょく）や閃緑ヒン岩などの貫入岩（かんにゅう）と接するときに、熱などによって変質してできた岩石で、黒の地に白色～灰白色の斑点のあるのが特徴です。磨（みが）くと灰白色の水玉模様が浮かびあがるので、その名がつきました。

この石は、茶臼山自然史館で行われた「いろいろな岩石展」（第4回特別展）で展示したものです。

◀村雨石の雨粒模様

「古墳」引越しすすむ

大室23号墳

長野盆地では、今高速道路建設の槌音があちこちから聞こえてきます。

この道路が造られることによって今後長野は大きく発展していくことでしょう。しかし一方では多くのものが消えていくことも忘れてはいけません。

総数500余基を数える大室古墳群の大室谷支群のなかの5基の古墳も消えゆく運命にありました。しかし、その

うち最も保存状態の良かった23号墳は、多くの方々の理解のもとに100m東に移築されることが決まりました。

事前に行なわれた調査では、7世紀前半に造られたことや、古墳の形、規模、構造など多くのことがわかりました。移築は、これらの情報をもとに現在作業が進められています。

平成2年度おもな行事

特別展

○収蔵資料にみる長野の歴史と生活(仮題)
7月1日～8月26日

○蚕糸業にみる近代の長野盆地（仮題）
10月7日～11月23日

プラネタリウム（仮題・今年度は5回番組替）

○宇宙の大きさ？—おかしな円卓会議—
5月19日～7月22日

○恐竜絶滅の謎　7月28日～9月9日

○韋駄天マーキュリー　9月15日～11月25日

○客星現れる　12月1日～1月19日

○星を分類する　1月27日～

このほか、考古学教室・民俗学教室・歴史教室・古文書教室・化石教室・天体観望会・C.Dコンサート・天体写真教室・黒点観測教室をはじめ、講演会・見学会も予定しています。詳しくは、博物館行事案内・広報ながのにて、お知らせします。

博物館だより　No.16　1990.3.20
編集・発行　長野市立博物館
〒381-22 長野市小島田町八幡原史跡公園内
☎ (0262)84-9011